

以上 IQSY 中における、大気光観測の実態を簡単に御紹介したわけであるが、わが国における実施機関と項目は次の表の通りである。

観測場所	実施機関	項目
女 満 別	気象庁地磁気観測	6300, 5577 光電観測、 写真分光観測
仙台(遠刈田)	東北大理学部	6300, 5577 光電観測
新潟(弥彦山)	新潟大理学部	5577, 分子帯光電観測、 分光写真観測
柿 岡	東京大理学部	5577, 6300 薄明大気光 光電観測
堂 平	東京天文台 東京教育大光研	5577, 6300, Na-D, OH, 対日照の光電観測、分 光写真全天カメラ観測
岐阜(七宗)	岐阜大学学芸学部	5577, 6300, 及び偏光観 測
阿 蘇	京都大理学部	6300, 5577 光電観測
内 之 浦	東大宇宙航空研究 所	ロケット 大気光観測担当 東京天文台、東大理 地物

以上の観測関係に加えて、これらの結果の情報及び観測データの交換が各国の研究者に円滑に配布できるよ

うに必要なに応じて資料センターが設けられている。各国の観測資料はすべてこれら資料センターに保管され、何時でも研究者の便に供している。わが国における資料センターは東京天文台がこれにあたり、その責任をはたしている。

(90 頁より続く)

これからの計画ですが研究費が頂ければ 9400 Mc/s 素子回転型干渉計を建設する予定です。これは 16 個のアンテナを 1 列に並べて 1 つの架台にのせ、水平にぐるぐる廻し又この架台をシーソーのように揺動させて太陽面を色々の方向に走査して 2 次元輝度分布を出すものでしかもアンテナ間隔が可変であらゆる方向に同じ分解能をもつというものです。又 10 米のパラボラ又は干渉計に日本電気株式会社の御厚意による 9400 Mc/s メーザー受信機をつけて銀河電波、銀河系外電波天体の観測することも計画しています。

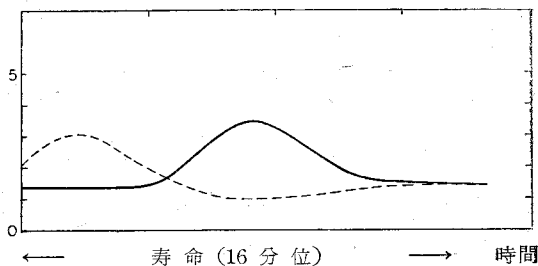
このように機械をふやそうとすると、ここ豊川でも狭くなって来ましたので、早く電波天文台が出来てその仲間に入れて頂けるのを待ち望んでいる次第です。

雑 報

スパイクールと彩層の微細構造の同定

第3図写真に見るような水素の H α 線をとった太陽面の黒い模様、太陽の縁にギザギザに見えるスパイクール(第1図)と同じものであることを、ベッカースはオーストラリアの 1/8A という狭い幅の H α 干渉フィルターでとった写真をもとにして注意深く結論している(J. M. Beckers, Ap J. 138, 648, 1963). その証拠としては

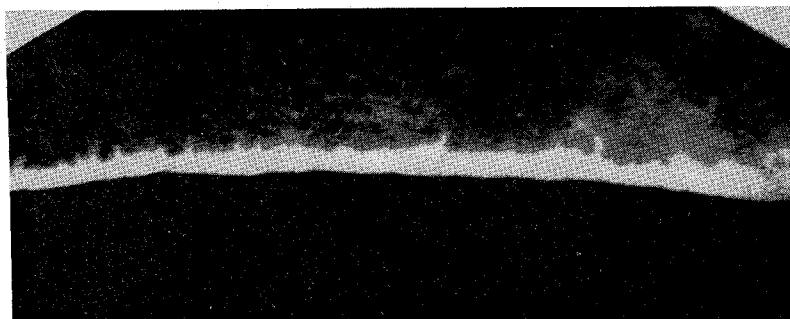
1) 黒い模様(細長い)の幅(1"位)と長さ(4"5)は、



第2図. 縦軸は黒い模様のコントラスト

スパイクールの幅や高さを説明できる。

2) 第2図のように H α 線の中心を狭む二つの波長で細



第1図 日食で撮影されたスパイクール、ギザギザの構造が見える。